

# 外国語に関連する教育課程特例校の状況について

# 教育課程特例校の総数と校種別、設置母体別の学校数

<算出方法>

「教育課程特例校指定状況データベース」(令和7年4月時点) より、学校種、設置機関ごとの内訳を集計

	総数	公立	国立	私立	株立
<b>教育課程特例校数</b>	<b>1,915</b>	1,800	19	94	2
内訳) 小学校	1,553	1,505	11	35	2
中学校	297	266	2	29	0
高等学校	43	12	3	28	0
特別支援学校	2	1	0	1	0
小中一貫校	1	1	0	0	0
義務教育学校	10	10	0	0	0
中等教育学校	9	5	3	1	0

# 外国語に関連する教育課程特例校の総数と校種別、設置母体別の学校数

## <算出方法>

管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、外国語に関連する内容で特別の教育課程を編成している学校数を集計。下記いずれかにあてはまる学校。

- 新設教科名に、「外国語」、「英語」、「English」のキーワードがある学校
- 申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容から、「外国語」、「英語」といった記載があり、明らかに外国語に関連する内容を実施していると判断できる学校
- 申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容から授業時数が増えていることがわかる学校
- 削減科目に外国語活動や外国語科を指定している学校（ほとんどが新設教科で外国語の授業を実施）
- イマージョン教育を実施している学校

		総数	公立	国立	私立	株立
<b>教育課程特例校数</b>		<b>1,483</b>	1,394	7	80	2
内訳)	小学校	1,280	1,240	4	34	2
	中学校	162	136	1	25	0
	高等学校	23	4	0	19	0
	特別支援学校	1	0	0	1	0
	小中一貫校	1	1	0	0	0
	義務教育学校	9	9	0	0	0
	中等教育学校	7	4	2	1	0

<算出方法>

管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、小学校低学年から外国語の授業を実施している学校数を集計。

- 申請書、管理機関や学校ホームページに記載の内容から小学校低学年より外国語に関連する授業を実施していると判断できる学校

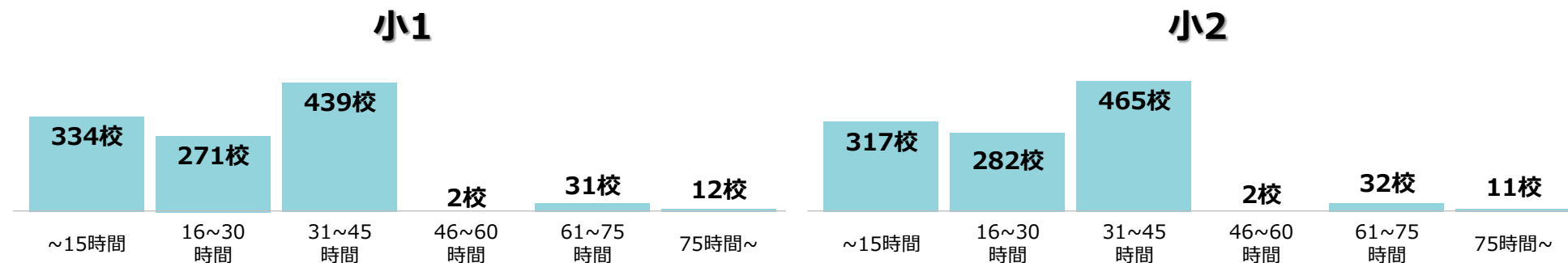
※P.5で掲載する小学校中学年から外国語科相当の内容を実施している学校数と重複あり

		総数	公立	国立	私立	株立
<b>教育課程特例校数</b>		<b>1,112</b>	1,085	2	23	2
内訳)	小学校	1,105	1,078	2	23	2
	中学校	—	—	—	—	—
	高等学校	—	—	—	—	—
	特別支援学校	0	0	0	0	0
	小中一貫校	1	1	0	0	0
	義務教育学校	6	6	0	0	0
	中等教育学校	—	—	—	—	—

# 小学校低学年から外国語の授業を実施している事例

事例①	概要	小1～2で「英語活動」を新設。 「外国語活動」の目標でもある「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す」を基本目標とし、発達の段階に応じた目標を設定。 (小1から聞くこと、話すことの目標を設定。)
	授業時数	小1：16時間、小2：16時間 「生活」から10時間を充当するとともに、年間総授業時数を6時間追加
事例②	概要	小1～2で「外国語活動」を実施。 「英語の音声に親しみ、身の回りの物を英語でまねて言おうとする」を目標とし、市独自の指導計画に沿ってあいさつや身の回りの物を表す簡単な英語を聞いたり言ったりする活動を行い、英語に親しむ。
	授業時数	小1：34時間、小2：35時間 「生活」から小1は19時間、小2は20時間を充当するとともに、年間総授業時数を15時間追加
事例③	概要	小1～2で「外国語科」を新設。小3～4では「外国語活動」を「外国語科」に変更。 平成30年度より、教育委員会が配布する教材を用いて、一部の学校で小1から「読む」「書く」の授業も実施してきた。この研究を活かして、令和2年度からは全ての学校で4技能の学習を実施する。
	授業時数	小1：34時間、小2：35時間 「生活」から充当 小3～4：35時間（時数は変更なし）

## ※授業時数の傾向



※ 管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、授業時数がわかる学校に限って集計。

<算出方法>

管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、小学校中学年から外国語科相当の内容を実施している学校数を集計。下記いずれかにあてはまる学校。

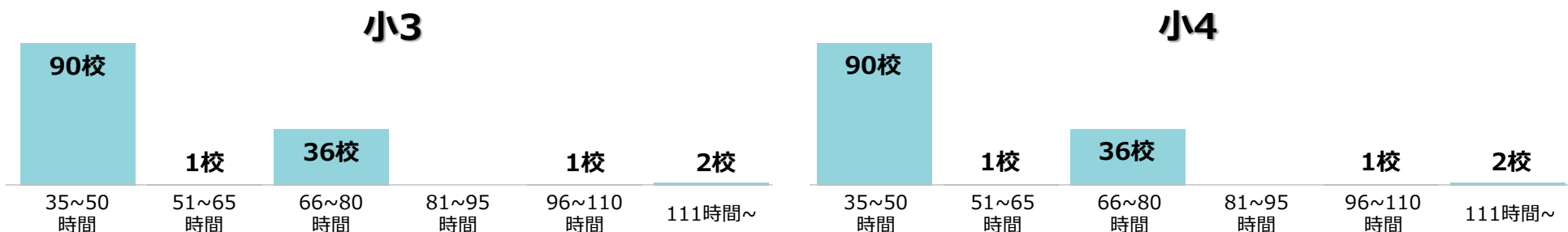
- 「読む」「書く」の指導も行っている学校
  - 評価評定を実施している学校
  - 小学校低学年（小1～小2）で外国語活動相当の内容を実施し、中学年では外国語科相当の学習を実施している学校
- ※P.3で掲載した小学校低学年から外国語の授業を実施している学校数と重複あり

		総数	公立	国立	私立	株立
<b>教育課程特例校数</b>		<b>134</b>	124	0	9	1
内訳)	小学校	133	123	0	9	1
	中学校	—	—	—	—	—
	高等学校	—	—	—	—	—
	特別支援学校	0	0	0	0	0
	小中一貫校	0	0	0	0	0
	義務教育学校	1	1	0	0	0
	中等教育学校	—	—	—	—	—

# 小学校**中学年**から外国語相当の授業を実施している事例

事例①	概要	市内全ての小学校にて、小3～6で「英語科」を新設。 目標は、「簡単な英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする活動を通して、英語によるコミュニケーションの基礎となる力を養う」とする。また、英語や外国の文化に対する興味・関心を深め、学んだことをもとに、他者に配慮しながら、積極的に英語で自分の思いや考えを伝え合うとともに、ふるさとのよさを再確認し、発信できるようにする。 外国語活動および外国語科の発達の段階に応じた指導の趣旨を十分念頭に入れつつ、小3以上で4技能5領域の指導を展開。小3では、音声面を中心としたコミュニケーションの素地となる資質能力の育成を図りつつ、段階的に「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむ学習を取り入れていく。また、小5～6では、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を堅持しつつ、音声面での十分なインプットや「話すこと」における「やり取り」と「発表」の十分な時間確保を図る。そして、「読むこと」「書くこと」においては、海外の学校との交流などを通して、言語活動による指導を行い、基礎的な力の育成を目指す。
	授業時数	小3～4：40～47時間 「外国語活動」の35時間に加え、「総合的な学習の時間」から充当（充当する時数は学校によって異なる） 小5～6：80～83時間 「外国語」の70時間に加え、「総合的な学習の時間」から充当（充当する時数は学校によって異なる）
事例②	概要	小1～6で「英語科」を新設。 6年間を通じた系統的、発展的指導により、英語で自分の思いや考えを発信したり、多様な相手と建設的な関係を築いたりすることができる資質・能力の基礎を養う。小1より音声に慣れ親しみ、中学年からは「読む・書く」能力の育成にも取り組み、高学年での指導につなげる。具体的には、中学年で文を読む指導や語順に気をつけて文を写して書くなどの指導を行い、高学年では音声で十分慣れ親しんだ表現を想起しながら自分のことについて書くなどの発展性のある指導を行う。
	授業時数	小1～2：18時間、小3～4：35時間、小5～6：70時間

## ※授業時数の傾向



※ 管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、授業時数がわかる学校に限る。

＜算出方法＞

管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、中学校の教育課程特例校の学校数を集計。下記いずれかにあてはまる学校。

- 標準時数以上の時間数で実施している学校
- 時数の一部を新設教科に充当している学校（この場合、一部の指導内容を新設教科で補完している）

※イマージョン教育を実施している学校数も含む

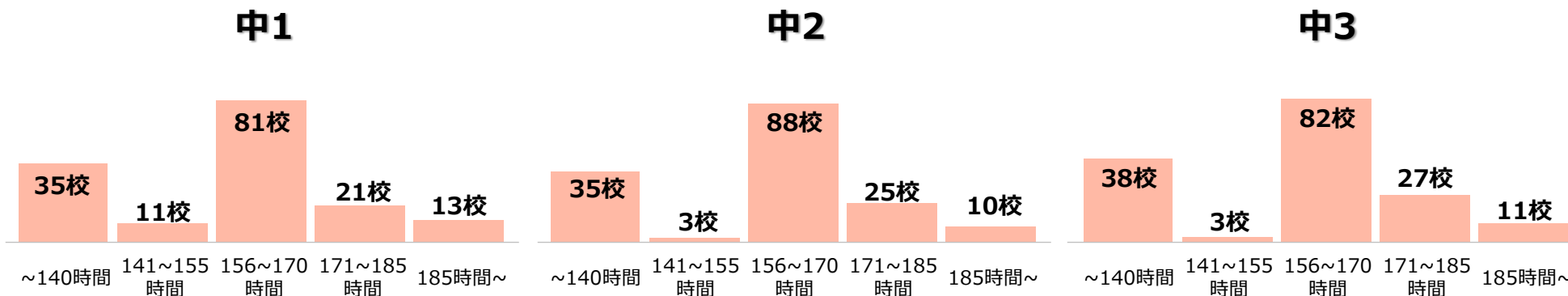
		総数	公立	国立	私立	株立
<b>教育課程特例校数</b>		<b>170</b>	141	3	26	0
内訳)	小学校	—	—	—	—	—
	中学校	162	136	1	25	0
	高等学校	—	—	—	—	—
	特別支援学校	0	0	0	0	0
	小中一貫校	1	1	0	0	0
	義務教育学校	0	0	0	0	0
	中等教育学校	7	4	2	1	0

# 中学校の教育課程特例校の事例

事例①	概要	中1～3において、「外国語」と「総合的な学習の時間」を組み合わせた新設教科を設置。日本と諸外国の文化や言語、考え方の違いを体験を通し比較する探究的な学習を行う。地域の外国人等と英語及び日本語によって交流する機会や、海外の学校とオンラインで現地の生徒と交流する機会を積極的に取り入れることで、「外国語」の指導内容の一部を補完する。また、日本と諸外国の文化や言語、考え方の違いを体験を通し比較しながら、「グローバル化が進む現代社会でよりよく生きるには」という問いについて探究的な学習を行うことで、「総合的な学習の時間」の指導内容を補完する。
	授業時数	中1：85時間 「外国語」から35時間、「総合的な学習の時間」から50時間を充当 中2～3：105時間 「外国語」から35時間、「総合的な学習の時間」から70時間を充当 ※「外国語」は各学年105時間ずつ

事例②	概要	中1～2において、「外国語」の140時間とは別に、新設教科を設置。聞く・話す・読む・書く活動を統合し、ふるさとについて紹介・案内したり、英語を用いて自分の考えや思い、情報等を発信する力をつけ、世界中の人々と英語を介して交流できる力をつけるために、コミュニケーションを中心とした内容とする。
	授業時数	中1～2：17時間 「総合的な学習の時間」から充当

## ※授業時数の傾向



※ 管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、授業時数がわかる学校に限る。

## 標準時数より多く外国語の授業を実施している学校数を集計

※P.3,5,7で掲載した学校数と重複あり

## ＜算出方法＞

管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、標準時数より多く外国語の授業を実施している教育課程特例校の学校数を集計。

※小3～中3のいずれかの学年で、標準時数より多い場合、集計

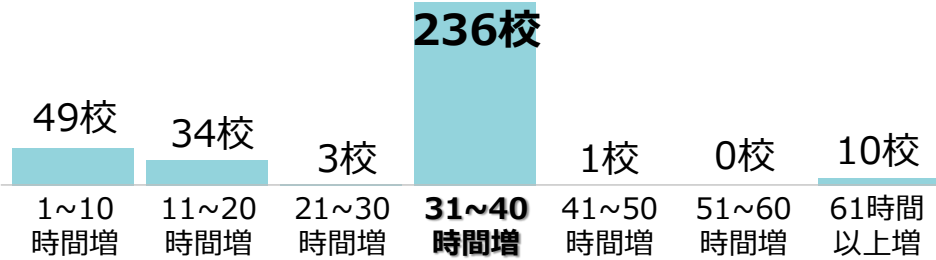
※イマージョン教育を実施している学校数も含む

		総数	公立	国立	私立	株立
<b>教育課程特例校数</b>		<b>461</b>	420	1	38	2
内訳)	小学校	335	310	0	23	2
	中学校	121	106	0	15	0
	高等学校	—	—	—	—	—
	特別支援学校	0	0	0	0	0
	小中一貫校	1	1	0	0	0
	義務教育学校	1	1	0	0	0
	中等教育学校	3	2	1	0	0

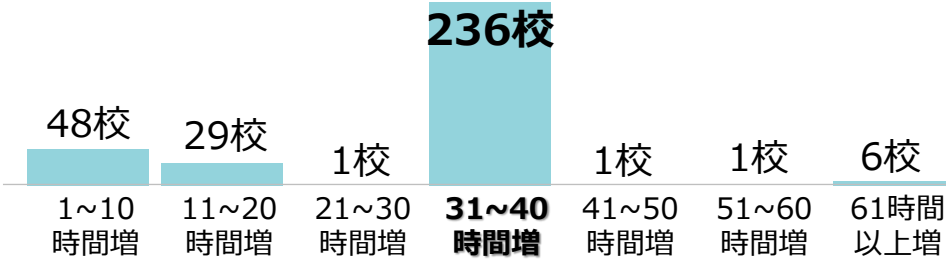
- 小3～4、小5～6ともに31～40時間増やしている学校が多い
- 中学校においては、11～20時間増やしている学校が多い

## 小学校

### 小3～小4

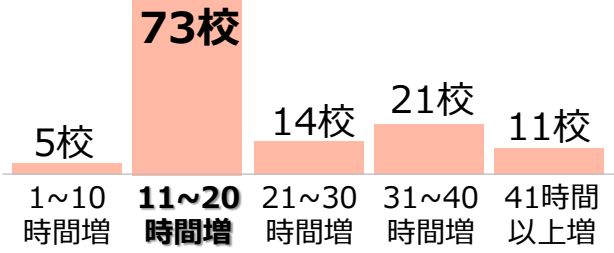


### 小5～小6

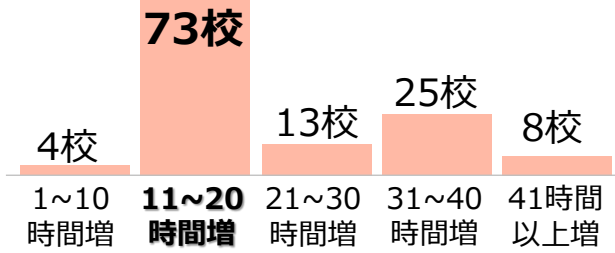


## 中学校

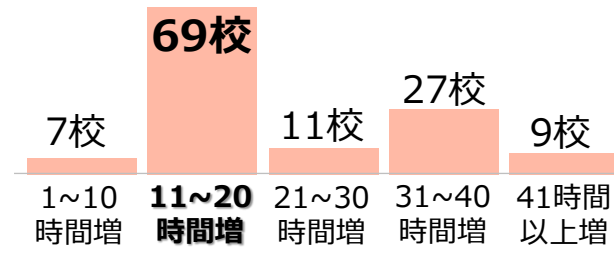
### 中1



### 中2



### 中3



※ 管理機関から提出されている申請書の内容、管理機関や学校ホームページに記載の内容を確認し、授業時数がわかる学校に限って集計。

事例	概要	小3～6において、新設教科「英語科」を設置。 「外国語活動」「外国語」の全ての学習内容を扱うとともに、別途設置する新設教科にて調べた「自分の住む地域のこと」を、外国人や他地区の方に英語で紹介する学習を取り入れている。
	授業時数	小3～4：50時間（+15時間） 「外国語活動」の35時間に加え、「総合的な学習の時間」から15時間を充当。 小5～6：85時間（+15時間） 「外国語」の70時間に加え、「総合的な学習の時間」から15時間を充当。

# 小 中 高 イメージョン教育を実施している学校の事例

<b>小学校の事例</b>	<b>概要</b>	<p>「イメージョン教育コース」を開設し、各学年に国語と道徳以外の授業を英語を用いて行うイメージョン学級を新設。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数、理科、社会、生活、外国語、外国語活動においては、日本語表記の教科書と英語表記の補助プリントを併用して、学習指導要領に示された学習内容の確実な定着と英語のコミュニケーション力の育成をめざす。</li> <li>音楽、図画工作、家庭、体育については、適切に視覚的支援を行いながら、英語を用いて授業を行う。</li> <li>総合的な学習の時間や特別活動においては、学習活動や子どもの実態などを考慮して、英語と日本語を使い分ける。</li> </ul> <p>※なお、小1～2では、年間70時間の英語活動を学習指導要領の総授業時数に加えて実施。</p>
<b>中学校の事例①</b>	<b>概要</b>	<p>「ダブルディプロマコース」を新設し、中1でブリティッシュコロンビア州のMathematics 7, Science7, English Language Arts7, 中2でMathematics 8, Science 8, English Language Arts8, 中3で Mathematics 9, Science 9, English Language Arts 9 を設置。</p> <p>※ダブルディプロマ：1つの学校に在籍しながら国内と海外の2つの卒業資格を取得することができる制度</p>
<b>中学校の事例②</b>	<b>概要</b>	<p>一部コースのみ、芸術科目（音楽・美術）でイメージョン教育を実施。</p> <p>外国人教員と日本人教員のチームティーチングで行うが、授業進行は外国人教員がメイン。美術では海外の作品を参考にして絵画を制作することや、陶芸などの日本文化を英語で学ぶ。音楽では世界の音楽に触れるだけでなく、ギターなどの楽器を英語で学ぶ。これらの授業を通じて、他国の文化や言葉に「感性」の視点から触れ、より生きたグローバル感覚を養う。</p>
<b>高校の事例①</b>	<b>概要</b>	<p>国際バカロレア・ディプロマコースの開講にあたり、開講の前年度より下記科目において、イメージョン教育を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地理総合、歴史総合、公共、数学Ⅰ、科学と人間生活、化学基礎、体育、保健、音楽Ⅰ（選択）、美術Ⅰ（選択）、英語コミュニケーションⅠ、家庭基礎、情報Ⅰ、総合的な探求の時間</li> </ul>
<b>高校の事例②</b>	<b>概要</b>	<p>一部コースでは英語を第一言語とする生徒が多く、海外への進学を希望する生徒もいるため、下記科目については英語で授業を行った方が効果的と判断し、イメージョン教育を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学、理科（物理・化学・生物）、英語、社会科科目</li> </ul>